

SMARXコンタクトによる10GHz信号伝送を実証

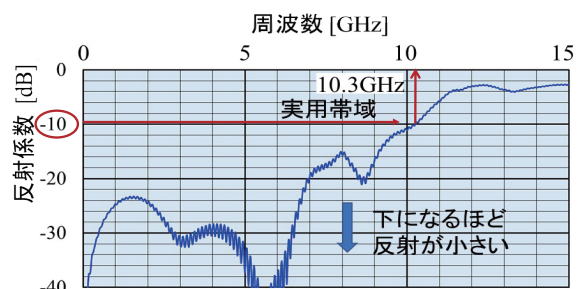
当社は基板間を SMARX コンタクト接続した測定環境において、10GHz の信号伝送が可能であることを実証しました。実測データによると、信号伝送に適した G-S-G (Ground-Signal-Ground) 配列にした場合、反射係数 -10dB (反射電力 10%) の実用帯域が、SMARX の CFO シリーズで 10.3GHz、CFC シリーズでは 13.0GHz となる結果が得られました。SMARX の特許技術である S.P.S (Short Path Structure : 短縮接点) 構造により、誘起ノイズが最小限に抑えられ、高速・高周波信号伝送においても優れた特性を示すことが実証されました。これによって設計自由度がさらに広がると期待されます。

反射特性 S_{11} 実測データ [下記測定環境にて実測]

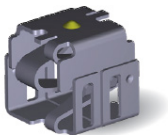
SMARX
(CFO_2.5mm高)



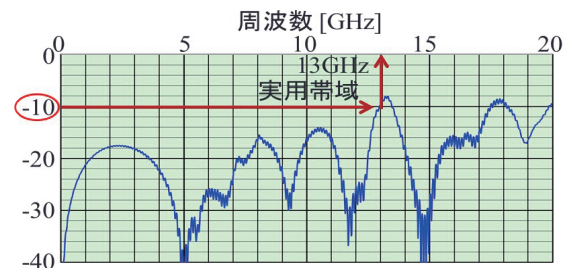
G-S-G 配列
1.3mm 間隔
実用帯域 10.3GHz
(被測定基板を含む)



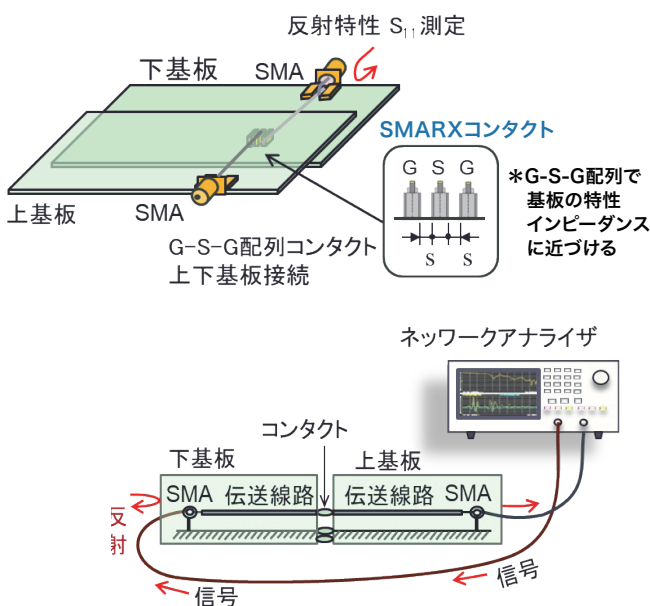
SMARX
(CFC_0.8mm高)



G-S-G 配列
1.55mm 間隔
実用帯域 13.0GHz
(被測定基板を含む)



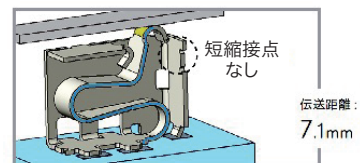
測定環境図 (セットアップ)



S.P.S (Short Path Structure) 構造

SMARX の特許技術：短縮接点により
伝送距離が短く、高周波特性が飛躍的に改善

短縮接点なし (他社：一般的方式)



短縮接点あり (SMARX: SPS)

